

[ホーム](#) > [フォーラム/セミナーの報告](#) > [フォーラム](#)

平成24年度 医療安全管理シンポジウム（静岡県東部地区）

4 病院の具体的な取り組み発表で意見交換

[プログラム・講師プロフィール](#)

平成 24 年 11 月 22 日（木）、公益社団法人静岡県病院協会 医療事故防止部会主催の平成 24 年度医療安全管理シンポジウム（東部地区）が、沼津市のサンフロントビルで開催されました。参加者は、静岡県内東部地区を中心に 31 施設と県健康福祉部から、医師・看護師・他医療従事者など 109 名でした。

今回のテーマは、静岡県内（東部・中部・西部）で統一され「病院の医療安全力」医療安全全国共同行動・行動目標 7「事例要因分析から改善へ」でした。

初めに、東部地区幹事の富士宮市立病院米村克彦病院長より「静岡県東部地区の病院同士が相互の取り組みについて情報を共有し、医療安全の発展を目指してディスカッションしましょう」と挨拶がありました。テーマの事例要因分析に特化することなく、4 病院の具体的な取り組み内容の発表でした。

初めに、沼津市立病院薬剤部の角田一成氏による「当院薬剤部の医療安全に関する取り組みについて」は、薬剤関連の事故を減らすための取り組みとして、医薬品関係の医療事故は主に病棟で発生していることから、薬剤師の病棟業務について検討しているとのことでした。

2 席目は、静岡県立静岡がんセンターの看護部中川麻美氏による「電子カルテにおける注射薬誤処方に対する取り組み」は、医療安全に関する委員会・報告システムについて紹介がありました。インシデント事例をとおして、検討し原因を明確化させて、電子カルテシステムの変更によりリスクを減少させる対策を講じたと発表がありました。

3 席目は、独立行政法人国立病院機構静岡医療センターの医療安全管理室佐々木麻里子氏による「当院における医療安全活動～院内メールを使用した情報交換の取り組み～」は、職員の研修参加を推進することを目的として、集合研修後、各部門で実施した KYT の内容及び行動目標を院内メールで配信し、コメント入力の方法で情報交換されたと報告がありました。

4 席目は、富士宮市立病院の医療安全管理室石川弥生氏による「当院看護助手の患者誤認防止の取り組み」は、看護助手の増員に伴い、誤認発生件数も増加したとデータ報告がありました。誤認事例を医療安全カンファレンスで分析し、教育・訓練により改善された内容の紹介があり、誤認が減少したと発表がありました。



開会挨拶 静岡県病院協会
参与 米村克彦氏



沼津市立病院
角田一成氏



静岡県立静岡がんセンター
中川麻美氏



静岡医療センター
佐々木麻里子氏



富士宮市立病院
石川弥生氏



いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動



全体討議では、富士宮市立病院米村克彦病院長を座長として、発表者と会場の参加者を交えて1席毎の発表について、内容を深めての意見交換が行われました。医薬品については、システムで工夫しても最後は人の入力のため、画面の表示・運用をよく理解して確認が必要と意見が出ました。また、薬剤師の病棟常駐については、業務整理と人員確保の課題が残されました。医療安全の院内研修については、各病院で企画する側の悩みとして参加率が挙げられました。同様の研修会を2～3回開催するなど、工夫されていますが、医師の参加が少ないと会場から発言がありました。医師の参加率が100%である病院長は、同じ研修会を3回開催しており、事前に参加者の確認を行っているで紹介されました。



閉会挨拶 静岡県病院協会
医療安全部会副部長
武井秀憲氏

参加された各病院が、医療安全について様々な課題を持ち、患者・職員の安全を目指して取り組んでいることを実感しました。 (報告者：富士宮市立病院 医療安全管理室 GRM 石川弥生)

*シンポジウムの各発表の概要は「[病院の活動紹介](#)」(目標7の項)に掲載しています。